

# 先人の知恵から

## 32

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

年間 4 回書いているので、32 回という  
ことは 8 年過ぎたことになる。長い年月の  
中で私自身には何の変化が起きたら  
ろうか？確実に歳をとり、体力、気力の衰えは  
感じている。いま「さ行」と言う状況だが、  
何とか出来る所まで頑張ろう。今回は以下  
の 8 つ。

- 小事は大事
- 小人閑居して不善を為す
- 小人の勇
- 上手な嘘より下手な実意
- 少年老い易く学成り難し
- 少年よ大志を抱け
- 賞は厚くし罰は薄くすべし
- 勝負は時の運

### ＜小事は大事＞

小さいことから大事が起こる。小事だか  
らと言って、おろそかにしてはいけないと  
いういましめ。

小さいお子さんがいるお宅で時々聞くの  
だが、お子さんが 1 円玉等小銭を欲しがった  
時に、1 つなら上げるとか 1 円玉だけとか、  
ちょっとだからとあげることがあると聞く。  
お小遣いも、小さいうちはあげない家もあれ  
ば、小さい時から 1000 円などとあげてい  
る家もある。お年玉の額などは小学生が数万  
円等、びっくりする。親戚が多ければそうい  
うことになるのかもしれないが、小学校低学  
年のお年玉は 500 円で十分だろうと思うの  
はおかしいのだろうか？

お金のありがたみ、価値について、理解で  
きなうちに多くのお金を小さい子が持つ  
ていると、子どもは簡単にお金を貰えるもの  
とってしまうだろう。

また、ゲームの課金も同様で、一回の課金は小さくても、ちりも積もればで、勝手にさせていると大変な額になってしまうことがある。

最初は大したことでなくても、そこでしっかり対処しないと、大ごとになる。大事になってから嘆いても遅い。そういう意味で、保護者の方々にこの諺を伝えている。

### <小人閑居して不善を為す>

小人は何もすることがなく暇でいると、良くないことを始めるとのこと。小人=徳の無い人格の低い人間。閑居=することがなくて暇でいる事。出典の原文では閑居となっている。

出典 大学

この諺は様々なところで使う。働きバチが良いということではないが、人間余り暇をしているとろくなことにならない。それは大人も子どもも同じで、余計なことをしてしまったり、考えすぎたりとなる。何かすることがあって、していれば、悪いことを考えたり、したりすることも無い。引きこもり中の青少年たちは、ゲームをしたりYouTube を観たり、或いは寝たりすることで、暇を潰している。そうすることで不安な気持ち、引きこもっている苦しさを忘れようとしているのだろう。忙しくして居れば余計なことを悩まないで済む。

仕事を頼むときも忙しい人に頼めと言われる。忙しい人の方がてきぱきと片付けるし、能力も高いことが多いからであろう。

自分自身にもこの諺を使っている。暇な時間があると、ポーっとテレビを観てしま

ったりして生産性が下がる。忙しい時ほど物事が片付くものだ。所詮小人なので、閑居しないのが一番である。

英語では・・・

By doing nothing we learn to do ill.  
(何もしていないでいると悪事を働くようになる。)

The devil tempts all, but the idle man tempts the devil. (悪魔はすべての人を誘惑するが、暇な人間は悪魔を誘惑する。)

### <小人の勇>

思慮の浅い者の、血気に流行った前後の見境のない勇氣の事。

出典 荀子

こういう勇氣は時々見かける。勇氣があるのは良いのだが、それだけではどうにもならないこともある。考える前に行動することも必要だが、行動する前に考えることも必要だろう。勇氣だけでは解決できない処か、大きな失敗に繋がることもある。勇氣はあるがと言うお子さんに会うとこの諺を使い、よく考えてから行動しようと伝えている。

### <上手な嘘より下手な実意>

うわべばかり飾って心がこもらない事より、たとえそれが手際が悪く下手でも、真心を込めてしたことは尊いということ。「上手な偽りより下手な誠」ともいう。

コミュニケーションが苦手な子によくみ

られるのだが、お世辞が言えない子がいる。思ってもいないことは言えないし、上手な言葉と言うのも探せない。或いはとても不器用な子もいるが、それでも一生懸命、真面目に物事に取り組んでいる子がいる時に、この諺を伝えている。

お世辞ではなく、良いところを探そう、好きなところを探してそれを伝えよう。不器用でも丁寧にゆっくり真面目にやれば、しっかりした結果を残せるものだと子どもたちを励ましている。勿論大人も同様である。自信のない母親にも同じように伝えられると思う。

### <少年老い易く学成り難し>

若い時は、まだまだ先が長く慌てる必要はないと思っているが、月日の過ぎ去るのは速くてすぐに年をとってしまう。しかし学問は中々成就しないものである。だから、若いうちから寸暇を惜しんで学問に励まなければいけないということ。

出典 朱熹「偶成」

人生は昔よりは長くなっているのに、この諺は今の時代にそぐわないのかもしれないと思うこともある。それでも子どもの時代がいつまでも続くわけではない。子どもうちにたくさん失敗し、色々な経験をすることはその後の人生にとって必ずプラスに働くだらう。しかし最近ゲームばかりで、外遊びもあまりしないという子も増えている。友達と揉めたり、喧嘩したり、相談したり、そういう学びもある。ただ勉強だけしていれば良いということでもないが、勉強も吸収率が高い時期に学校でしっかり学

んでおけば、社会生活でほとんど困らないレベルの知識を得られる。

近頃、歳をとってから学ぶ人も増え、生涯学習や社会教育等、様々な活動が中高年の方たち向けに開催されている。歳をとっても学べることは素晴らしいし、そういう時は意欲も違うので学びが楽しい。学校教育の内容が子どもたちにとって楽しいものであるなら、もっと子どもたちは多くの事を吸収するのだろう。現代では、そんな意味合いで伝えるのも良いのではと思う。

英語では・・・

Art is long, life is short. (芸術は長く、人生は短し。)

The day is short, and work is much. (一日は短く仕事は多い。)

### <少年よ大志を抱け>

若者よ、将来に対する雄大な抱負を持って飛躍せよという励ましの言葉。

ウィリアム・スミス・クラーク

この言葉はとても有名で、多くの人が知っている。特に北海道では使いやすい。夢を持たない、20歳になったら死ぬなどといっている子が増えてきた中で、この言葉をいきなり使っても抵抗されるだけである。大志でなくても良いから、何かしら、夢や希望を持てたらよいなと思って、この言葉を出して「そこまで大きくなくても良いから何かしら持てるとよいね」と伝えている。将来に夢を持ってなくしているのは大人の我々の責任でもある。何かやってみたいことを見つけれられるように導いてくれる大人で

ありたいものだ。

英語では・・・

Boys be ambitious. (少年よ大志を抱け)

### <賞は厚くし罰は薄くすべし>

善行や功労はどんなに小さくても大いに褒めて褒美を与え、罰するときは出来るだけ軽くせよということ。

出典 説苑

学校に入っていると様々な先生に出会う。授業参観をしてみているが、褒め上手な先生のクラスは子どもたちが明るい。反対に叱ってばかりのクラスでは子どもたちに元気がない。子どもたちが良い行動や頑張った時にしっかり褒めてあげる、認めてあげる事で、子どもたちは更に頑張ろうと思うだろう。しかし子どもたちも間違っただけをする。その時は短くはっきり叱ることが必要である。ダラダラと説得しようと話していても、子どもたちは最初の数行分しか話を聴けない。さっと叱って終わらせる方が入りやすいのである。それを分からない先生がいるのが残念だ。以前、恐怖政治の様に、上から怒鳴りつけて子どもたちを統制しようとしていた先生がいた。子どもたちは恐怖で確かにピシッとしていたかもしれないが、その翌年優しい先生が担任になったとたんに学級崩壊した。こんなことは予測できる話で、それを考えられないことが問題である。

学校だけではなく、家でも、褒める割合と叱る割合について説明するときに、この

諺を伝え、先人の知恵に学んでもらう。

### <勝負は時の運>

勝ち負けはその時その時の運・不運によって左右されるもので、必ずしも実力通りとは限らない。勝っておごることも、負けて落胆することも無いということ。敗者への慰めの言葉として用いられる。勝者にとっては自戒のことばになる。「勝敗は時の運」「勝つも負けるも時の運」ともいう。

ずっと勝ち続けることも無ければ、ずっと負け続けることも無いのが人生。運・不運は必ずある。勉強すれば必ず100点とれるわけではない。完璧に勉強したと思っただけでも、いざ試験になったら度忘れすることも、たまたま勉強しなかったところが出題されることも会う。大して勉強しなかったけど、たまたま勉強したところが出て、凄く良い点を取れた人もいて、これはもう運でしかない。

交通事故に遭う場合も、いつも通らないのにたまたまあそこを取ったら事故に遭ったという人もいるだろう。大事な日に熱を出してしまうことも、ケガをしてしまうこともある。これも運と言えるだろう。

運を引き寄せるのも力だという人もいるが、勝負に負けても、それが運が悪かっただけと言われた方が、自分の力不足ばかりを言われるよりは負けた人にとって気持ちが楽になる。受験や勝負事で負けた人にはこの諺が良いだろう。

英語では・・・

The chance of war is uncertain. (戦いに勝利する見込みは不確かなもの)

## 出典説明

### 大学・・・全三巻

中国古代の兵法書。周の太公望の著とも、また、前漢の張良が土橋の上で黄石公から授けられたとも伝えられるが、後世の偽作と言われる。上略・中略・下略の三巻から成り、老荘思想を基調とした治国平天下の大道から政略・戦略の道を論じている。同じ兵法書の『六韜』と併称され『六韜三略』ともいう。

### 荀子・・・全二十巻三十二編

中国、戦国時代の思想書。趙の思想家荀況

(荀子は尊称)の著。孟子の性善説に対して性悪説を唱え、人間の性は本来悪であるから、礼によってこれを改め、善に導いて、社会秩序を維持すべきだと主張した。

### 朱熹(1130~1200)・・・

南宋の儒者。朱子学の創始者。字は仲晦・元晦。朱子と尊称される。十九歳で進士に合格し、長い間官界にありながら学問に励み、諸学説を統合して儒学を集大成した。著書に『資治通鑑綱目』『四書集註』『近思録』などがある。

「偶成」(たまたまできた詩の意)は朱熹の漢詩で、「少年易老學難成、一寸光陰不可輕、未覺池塘春草夢、階前梧葉已秋聲」(少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず、未だ覺めず池塘春草の夢、階前の梧葉すでに秋聲)とある。意味は、「若者はあつという間に年を取ってしまい、学問は中々完成しにくい。だから、少しの時間でも軽々しく過ごしてはならない。池の堤の若草の上でまどろんだ春の日の夢が、まだ覺めないうちに、階段の前の青桐の葉には、もう秋風の音が効かれるように、月日は速やかに過ぎ去ってしまうものである。」ということである。

### クラーク(1826~1886)・・・

William Smith Clark はアメリカ人教育者。化学、植物学、動物学の教師。能楽教育のリーダー。1876年札幌農学校(現北海道大学)開校。初代教頭。同大学では専門の植物学だけではなく、自然科学一般を英語で教えた。このほか、学生たちに聖書を配り、キリスト教についても講じた。のちに学生たちは「イエスを信じる者の誓約」に次々と署名し、キリスト教の信仰に入る決心をした。札幌農学校1期生と別れる際に、北海道札幌郡月寒村島松駅通所でクラークが発したという言葉が「Boys, be ambitious.」として知られていた。